

## 市民と市長の対話集会「緊急財政対策計画について」

令和元年 11 月 6 日（水）午後 7 時～8 時 20 分  
稲穂の里みはら館

### ○意見交換議事録

発言者 A： 2 点ある。1 点目は、洪水などに対する河川改修、堤防が切れない立派なものを作ってもらいたい。2 点目は、笑顔の市民、にこやかな市民の看板をつくって、市民を増やしていく。そうなれば、財政的にも少しずつ良くなるのではないかと思う。

見城副市長： 1 点目の災害に強いまち、特に河川改修について問題提起していただいた。去年、小郡市が豪雨災害を受けたときは、想定外の災害で認識が甘かった部分がある。去年は 1 時間に 50mm 近く、今年は 86mm の雨が降った。その後も全国的に見ると 100mm、120mm クラスの雨が降っており、台風 19 号でも大きな被害が出た。

従来の雨量をもとに造っている河川に対し、86mm、100mm、120mm の雨が降ると河川から越水したり氾濫したりして大きな災害となっている。1 級河川は国で 2 級河川は県の管轄となり、この辺りでは筑後川は国でそれ以外の河川は県となるものが多いが、国、県、久留米周辺の自治体でプロジェクトを作って、どうやったら災害に強い河川となるのかを協議しながら対策を詰めている。

とは言いながら、その対策には多額の費用と時間が必要となる。小郡市では、2 年連続で豪雨災害に遭ったので、60mm 程度の雨が降っても床上浸水にならないような止水というテーマで短期間に対策が講じられないかという検討を専門家と行っている。その調査も可能であれば今年度予算の中で補正もさせてもらえれば、と思っている。簡単に止水しませうと言えるものではないが、先ほど市長が話したとおりチャレンジをすることが大事なので、しっかりチャレンジして防災とまではいなくても減災という視点で対策に取り組みたい。

経営戦略課長： 2 点目の笑顔の看板について。市の第 5 次総合振興計画では、笑顔あふれる快適緑園都市という将来像を掲げまちづくりに取り組んでいる。ソフト事業では、協働のまちづくりや自治会の活動など、基礎的な活動が笑顔あふれるまちづくりになってくると思う。もちろん子育てしやすいまち、高齢者がいきいきと暮らせるまちづくりというのも大切。そういった視点を市職員も持って業務にあたっていきたい。

発言者 B： 市長に対しての質問。筑後弁を話してもらったほうが女性としては話しやすい。いろんな問題を相談するとき方言でないと話にくい。方言での対話の中で親近感も出てくるので、たまには筑後弁で話してください。

市長： 考えたいと思います。出前トークや車座トークという少人数の方と話すこともやっ

ていますので、話しやすい少人数の会合に呼んでください。

発言者C： 先ほどの説明の中で扶助費について意見がある。扶助費がこの4～5年で約10億円増えているが、少子高齢化の影響もあると思う。平均寿命は男性で81歳、女性で87歳。健康寿命というものがあるが、平均寿命と大きな開きがある。健康寿命をいかに長く保ってもらって元気に過ごしてもらおうかということが大事だと思う。先日テレビでもあったが、公園に高齢者用の遊具を設置してもらえれば、子どもとのふれあいの機会にもなり元気に過ごしてもらうこともできる。高齢者用遊具の設置を考えていただきたい。

もう1点。宝満川がふれあい橋から稲吉橋まで嵩上げをされると聞いた。宝満川ではジョギングやウォーキングをよくされているが、嵩上げされたときに桜や彼岸花などを植えてもらえたら景観上も良くなると思う。お願いをしたい。

副市長： 昔は子どもの遊具が中心だったが、今、いろんな公園で高齢者の方がストレッチをできる遊具を置くようになってきた。ただ、最近の報告では、夏は酷暑であり冬は寒く利用期間が短いことが課題ということを知る。問題は高齢者の方が体を動かして健康、長寿になることが必要ということなので、公園だけではなく、屋内も含めて運動の機会づくりを先ほどから出ている総合振興計画の中でしっかり議論していきたいと思う。

もう1点の宝満川の嵩上げができた後に桜並木をつくってほしいというご要望についてです。私もそのようなところを歩いたら気持ちいいだろうなあと思います。考えていきたいと思います。

発言者C： 嵩上げは本当にできるのか。

副市長： 河川には今まで国の管理区間、県の管理区間とあったのですが、それを無くすように国が音頭をとって国土強靱化と言っているが、災害に強いまちづくりをやろうと検討が始まった。いつからどこをどうやってどんなふうに嵩上げするかは決まっていないが、動き始めたという段階。

発言者D： （高齢者の健康については）高齢者をなるべく家から出さないといけない。家にじっとするのはいけない。

市長： 健康については、この御原まち協でも、歩け歩け大会を毎年やっていただいて、実は私も参加していつもベスト10入りしている。聞くところによると皆さんが自然に外に出てきて、あそこも歩いている、ここも歩いていると皆さんが歩いてくださっていると聞く。そうした地域の地道な活動、あるいは今後は、これも御原が先行的にやっていただきながら課題も共有させていただいているが、健康ポイントづくりという形で、さまざまな活動に積極的に出ていただくことによってポイントを付けて何かしたら特典をつけていくといった活動についても全市のにも取組ができないかということでやらせてもらっている

ので、積極的な方法で健康寿命を延ばしていくことについては皆さんと取り組んでいきたい。

ちなみに桜の話が出たので少しだけ。先月、県の河川の会議に出て、今までは堤防に桜などを植えると根っこで堤防が弱くなるから駄目だという話だったがどうなんだという質問が出たが、そういうことはない、ちゃんとしたことを計画的にやればそういうこともできると国や県の担当者も言っていた。河川は我々の大切な環境資産だから活用について皆さんと一緒に考えていく機会を増やしていきたいと思う。また、河川の清掃活動ががんばっていただいていることも併せてお礼を言いたいと思います。いつもご協力ありがとうございます。

発言者E： 私はあまり財政の関係は分からないが、1年半くらいの議事録と決算の文書を読んだ感想。財政再建の基本方針を出してあるが、これをいかに幹部が部下に対して危機感を染み込ませるか、理解してもらうことが重要だと思う。私も長くサラリーマンをしてきたが、それができれば社員は動く。役所の人は真面目だから幹部がやれば職員も頑張ってくれると思う。それに期待しながら基本方針をきちんとやってもらうことをお願いしたい。

収入の関係で、ふるさと納税と市有地の売却、寄附金とあるが、市有地売却と寄附金はその時で終わる。ふるさと納税もそこまで期待できるのか。あまり小郡はぱっとしない。前回の議事録をみると養蜂家の人がレンゲの話がされていた。今モチノキの蜜しかやっていないが、レンゲになると価値が上がる。私も養蜂を趣味でやったことがあるので分かる。そのように地域の人と協力しながらふるさと納税をつくっていけばいいものができるのではないと思う。

最後に小郡の財政に対して監査に指摘されているのかと思って市のホームページを見たら、決算審査しかなく、定期監査について掲載がなかった。法で決まっているものなので掲載をお願いしたい。

市長： まずは危機感の共有についてです。実はこのプランを作る中で、今日来ている担当が中心となって各部署とかなりの議論をしてきている。また、庁議という部長以上の会議が陰悪な空気になるくらいの厳しい議論も交わされるようになった。そのくらい真剣味と危機感が庁内の中にも出てきている。緩むことなくしっかりと進めていきたい。

ふるさと納税については、昨年度実績で3億4千万円まできている。これは地道にルール通りやっての3億4千万円で、おっしゃるとおり、なかなか爆発的な特産品がない地域としては、よく頑張っているのではないと思う。ちなみに今年はこの倍のペース。いろんな形で担当が頑張ってくれ、広がりが出てきている。今後はクラウドファンディングなど新しい手法も使いながら、より小郡ファンを増やしていこうと思う。レンゲ米もそうした手段の一つとしてとても特徴的であるし、環境に配慮したりとか小郡らしい試みができるのではないと思う。ヒントを持ち寄ってくれる方が、増えているということが小郡の強みになってきていると思うので、声を上げてくれる方のチャンスというのを一緒に捉え

ながらしっかりやっていきたい。

副市長： 監査の仕組みについては、毎月執行したものについて正しくルールどおりにやれているかを見る例月監査、また1年に1回決算が出るが決算を各部署からヒアリングをして、きちんとできているかを見る決算審査、テーマを絞って行う定期監査などにより予算の執行が健全に行われているのかをチェックし、課題があった場合は指摘されている。市の財政は、一応、形式上は黒字になっているが、貯金を取り崩して、借金をしてそのようになっている。今、心配しているのは、あと何年かすると貯金を食いつぶしてしまったら市民の皆さんにご迷惑をかけることになる。財政の問題は全国的な課題となっている。市長が言うようにピンチをチャンスに、早めに我々は気づいたんだと早めにあるべき姿の財政運営をしていこうと職員一丸となって知恵を出して工夫をしながら頑張っているところです。

発言者E： 監査で言いたかったのは、地方自治法199条の監査は法で定まっているということ。公にしなさいとなっている。その文書がホームページにない。233条にかかわった審査、決算審査はある。他市では、契約関係や未納になっているものについて分析が入るがそこを知りたかった。

副市長： 経営政策部長にも確認したが、監査についてホームページでは公表がされていないようなので、持ち帰って監査事務局とも協議をさせていただきたい。

（※定期監査の公表については、市役所掲示板への掲示で行っている。ホームページでの公表については、今後、監査委員にて検討）

発言者F： 市の貯金が減っているとのことだが、なぜ減っているのかと思う。人件費、残業が増えているという話や前市長時代からの計画を実施していくためにはそれだけの金を使わないといけないという話も聞くが、なぜ残業代などが急に増えたのか。また人件費については、部が1つ増えている。部ができて何が良くなったのか、今までできなかったことができるようになったのかをお聞きしたい。

小郡市は七夕の里おごおりと言われるが、宝満川が天の川になればと平成13・14年頃に地域からスタートしている。宝満川の清掃について行政の協力を頂けないか。今年度は前年度程きれいにしきれていない。皆70代前後の人達でやっている。よろしくお願ひしたい。

人事法制課長： 人件費については、年々増えている状況。その要因としては、毎年業務量に応じた職員数を確保していること、併せて加地市長が就任されているような新たな取組をする中で職員も新たな事業に取り組む中でいろんなことを考え皆さんとお話しし実行することで、日中の仕事、時間外の仕事が増えている状況もある。ただし、市としてどの分野に集中していくかを踏まえて、昨年7月には機構改革をして、市長マニフェストにもある

子育てに重点的に市として取り組んでいくために子ども健康部を作っている。そういった新たな取組の中で、職員も一生懸命頑張っていることで時間外勤務が増えている状況となっている。ただこの財政が厳しい状況の中、人件費については押さえていかなければならず、緊急財政対策計画にもあるとおり今年7月から時間外削減の試みを行っている。むやみに時間外勤務の削減をしているというわけではなく、必要な時間外勤務であればする、明日や1週間後などに延ばせる仕事であればしないということを各課できちんと管理することを徹底してきている。この試みで7月以降の時間外勤務は減ってきている。今後は業務の優先順位をつけてメリハリをつけた業務を進め、人件費の削減に努めていきたい。

財政課長： 河川の清掃について、毎年行っていただきありがとうございます。老松神社と七夕神社が対岸に位置していることから宝満川を天の川に見立てて、七夕の里としてまちづくりをスタートしている。宝満川の清掃については、行政も協力をすることは当然だが、市民の皆さんの協力をいただきながら宝満川の一斉清掃も行っている状況。それに加えて草刈などできないか、広げることができないか行政も関わっていききたい。

発言者G： お礼を一言。稲吉橋の工事で11月30日から開通となっていたが1か月早く開通していただいた。ありがとうございました。

発言者H： 昨年、今年と豪雨があった。御原の避難場所は下岩田市民館と宝城中学校だったが、ライスセンターから宝城中学校に行くときは冠水している。場所の選定はどうなっているのか。市としてハザードマップを配っていただきたい。

経営政策部長： ハザードマップは以前からあったが、今年の4月に作り直して広報に折り込んで全戸配布している。もし、お持ちでなければ市役所でもお渡ししている。冠水の状況については、市ホームページで地図上に昨年、今年の豪雨で冠水した道路の表示をしているので参考にしていきたい。

副市長： 今のハザードマップは24時間あたり926mmの降水量の想定でできている。今年のような1時間あたり86mmや、各地で豪雨災害となった100mm以上の規模のものを想定していない。また道路は1時間あたり50mm想定で造ることが国の基準。100mm以上であると避難はできないということで、テレビでは命を守るために2階へ上がってくださいと呼びかけていた。このことや今のご意見を踏まえて見直していきたい。今回の災害状況を踏まえて、市民の皆さんが安全に避難できるような方法を考えていければ、と思う。